

はじめての
万葉集
日本に現存する
最古の和歌集(万葉集)を
わかりやすくご紹介します

vol. 132

都の造営

都の造営を詠んだ二首です。当時の人々にとつて、都の造営は神の仕業だったのでしよう。天皇を現人神とする思想の高まりです。

題詞は、両歌が壬申の乱(天武元(六七二年)年)平定後のものと記します。よつて、飛鳥浄御原宮(天武元年に造営、朱鳥元(六八六年)年に宮号を定める)以後の宮都を詠んだことが分かります。

上記二首の都はいづのものです。飛鳥浄御原宮周辺は、宮や寺が建ち並び、赤駒の腹ばう田や水鳥の集まる沼が広がっていたとは考え難い状況です。また、歌が記録された天平勝宝四

大君は 神にし坐せば
赤駒の 匍匐ふ田井を 都となしつ
大伴卿 卷十九(四二六〇番歌)

大君は 神にし坐せば
水鳥の すだく水沼を 都となしつ
作者未詳 卷十九(四二六一番歌)

訳 天皇は神でいらつしやるので、赤駒が腹ばう田を都としてしまわれた。

訳 天皇は神でいらつしやるので、水鳥が鳴き騒ぐ沼を都としてしまわれた。

(七五二年の漢字原文に、「京師」「京都」(読み下しの「都」に該当)とあり、大規模造営が想起されます。

飛鳥浄御原宮は、後飛鳥岡本宮を受け継いだもので、その後大規模な改修・造営の記録がありません。歌の情景が実景ならば、壬申の乱後であること・飛鳥浄御原宮でないことから、藤原京造営の歌と考えることもできます。

作者大伴卿の肩書を左注は「大將軍贈右大臣」とします。大伴氏の贈右大臣は、死後に右大臣を追贈された御行を指します。ただし、御行は壬申の乱で功績がありましたが大伴氏の有力者では、吹負が將軍、旅人が征隼人持節大將軍に任命されましたが、贈右大臣の記録は



(本文 万葉文化館 中本和)

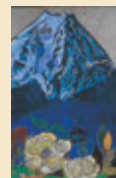
万葉文化館 イベント情報

◆特別展 花と緑に魅せられて

― 佐藤美術館コレクションより ―

開催中〜5月6日(振休)

大阪の鶴見緑地で開催された「国際花と緑の博覧会」(花博)の際、日本画家50名が「花と緑」をテーマに作品を描きました。本展では、佐藤美術館が所蔵する関連作品とともに当館所蔵の万葉日本画を展示します。



片岡球子《富士に献花》佐藤美術館蔵



田淵俊夫《緑詩》佐藤美術館蔵

※令和7年4月1日から観覧料の減免(割引)制度が変わります。

※県内在住の65歳以上の方の割引は3月31日をもって終了します。その他割引など、詳しくは当館HPをご覧ください。

ギャラリートーク 要観覧券

4月23日(水) 15時40分〜

[講師] 当館学芸員

[会場] E本画展示室

◆万葉集をよむ 無料

4月23日(水) 14時〜15時30分

「秋の雑歌(1)」
(巻0015111〜15117番歌)

[講師] 井上さやか
(当館企画・研究係長)

[定員] 150人(先着・申込不要)
※オンライン視聴(定員なし)は要申込

◆にぎわいフェスタ万葉春

4月23日(水)〜6月8日(日)

詳しくは当館HPをご覧ください。

奈良県立 万葉文化館
☎0744-54-1850
www.manyo.jp

